
再会

紅蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
再会

【コード】
N7934M

【作者名】
紅蒼

【あらすじ】
守龍をコーサ国に呼び幸せに暮らすアルダココとウルファ、そして地狼のヨール。

しかしある日ありもしない不思議な出来事が東の果て半島のパトー
ジエン村に起こる。

ある人物との数奇な再会。

予兆（前書き）

はい、はじめて投稿の紅蒼コウソウです）（

え、自分の好きな小説家の方の小説をみていて、こんなことがあつたらいいな、って思い書いてます。

駄文、誤字脱字ありまくりかもですがよろしくおねがいします。

予兆

緑豊かなある村。

しかしほんの少し前までは土地は枯れ、雨もあまり降らず村人は一年一年をなんとか切り抜けてきたそんな村がある。

その村の名前は「パトージェン」

その村に住む二人の人間と一匹の地狼・そしてその地狼を知る一人の人間に起こる不思議な物語。

物語は一人の魔法使いから始まる……

タギ「ちくしよ〜なんでわざわざ俺がこんな地方の魔法陣の調査にこないといけないんだよ」

周りに人がいるが気にすることなく悪態つく一人の男。

門番「すいません。わざわざ遠いところを。」

タギ「ま〜仕事だからやるけどよ。つたくめんどくせー」

傍目にも分かるほど面倒臭そうにするこの男、名を「タギ」態度も悪く言葉使いも悪いが魔法の力は一級品。

フウキ国にて七賢者の座についていた過去を持つ者。

タギ「とりあえず魔法陣の中に入って調査するから誰もこの部屋に入れるなよ」

魔法使い特有の杖を担ぎ気怠そうに魔法陣のある部屋へと入って行くタギ。

門番「はい。わかりました。ではおねがいます」

そつ言い門番は魔法陣のある部屋の扉を閉めた

タギ「さて始めるか。」

杖を右手に持ち魔法陣へと足をすすめるタギ…そして魔法陣の真上にタギが立った瞬間魔法陣から突然白い光が立ち上がる。

タギ「っ！なんだこれ！」

タギは魔法陣から離れようとしたその時魔法陣が発動しタギはその魔法に飲み込まれた。

予兆（後書き）

こんな感じで1話目開始で……正直小説書くのってむずかしいです

（ ; ）

でも、楽しくもあります）（

がんばりや〜す！..

予兆2(前書き)

はい。むずかし〜”(ノ<>(ノ

いや文才ないときついっすな) ;
(;

予兆 2

パトージエン村の裏の山の中にて

ロール「…ん？」

アルダココ「ヨール？どうかした？」

散歩にとアルダココはヨールを連れパトージエン村の裏にある森の中へと来ていたが、突然隣をあるく地狼のヨールが歩みを止めた。

ヨール「いや、不思議な魔法の流れを感じたのでな」

アルダココ「不思議な魔法の流れ？魔法使いが近くにいいのかしら？」

アルダココは周りを見渡すが人影など見ることもなく見慣れた森が広がるだけだった。

ヨール「いや魔法を使ったという感じではなく、魔法が暴発したような感覚のほうが正しい」

アルダココ「ん〜？」

ヨール「ま〜あまり気にすることではない。幸いにもここからすぐ近くというわけでわかないからな」

そう言いヨールは歩みを再開したのでアルダココもそれについて歩き始めた。

アルダココ「魔法ね。まさかラダがヨールに会いに来るために移動の魔法を使ったとかだったりして？」

魔法と聞きアルダココにはすぐに思い浮かぶ魔法使いがいたためヨールにそう言った。

ヨール「いや、先ほども言ったが魔法の暴発のようなものだ。移動の魔法には少々荒すぎる」

アルダココ「そう。一体なにかしら？」

アルダココがなお不思議そうにしながら散歩を再開させているといつのまにか森の入り口まで着いていたらしく森の入り口から声がかかる。

ウルファ「アルダココ。ちゃんと前を見て歩かないところぶぞ？」

アルダココ「ウルファ迎えに着てくれたの？」

アルダココの前には赤髪の青年が手を差し伸べて立っていた。

ウルファ「もう日もだいぶ落ちてきたからな」

アルダココ「ありがとうウルファ」

アルダココはウルファの手を取りウルファの隣に並び歩く

ヨール「ふむ、相も変わらず仲がいいようだ」

いつものようにアルダココたちと並びにぎやかに村へと帰るヨール。

兆し（前書き）

ぬが〜激連続投稿”（ノ<>）ノ

書けるときに書かないとね）（

兆し

ヨール達が散歩をしていた森から離れた山の中で空中に突如魔法陣が浮かび上がる

タギ「うわあああ！」

空中にできた魔法陣からタギは地面へと放り出された

ドサツ！！

タギ「いつて…：なんなんだよ一体！魔法陣は突然作動するし、行き着いた先はどっかの山の中。くそっ！厄日だな」

タギは立ち上がると周りを見渡し状況整理を始めた

タギ「見た感じフウキじゃあなさそうだな。でも、なんか知らない土地とは思えないしな…：とりあえず人里を探してそれからか」

タギは杖を持ち直し山を降りるため歩きだした。

歩きはじめてから一時間位がすぎたころ前方に村の明かりが見えた。

タギ「村があるな。よし、とりあえずあそこに行つてここがどこか聞くか」

情報を集めるためタギは村へと歩いて行く。

もちろんその村の名前は「パトージエン」である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7934m/>

再会

2010年10月12日02時50分発行